

NO-MA ニュースレター

2015.11 / VOL.19

ボーダレス・アートミュージアム  
NO-MA ニュースレター

「(社福)滋賀県社会福祉事業団」は、「(社福)オープンスペースれがーと」とひとつになり、「(社福)グロー」となりました。これからもよろしくお願ひします。

展覧会レポート

これ、すなわち生きものなり

Topic of NO-MA

第12回滋賀県施設合同企画展  
ing… ～障害のある人の進行形～

ABCcolumn

アール・スリュットを巡るコラム VOL.9

地域インタビュー

あの一ひとの近江八幡スタイル  
中島 清 さん クリーニングの相互



# 展覧会レポート

## Exhibition Report

編：横井悠（本展担当）

想像上の生きものをテーマとした企画展「これ、すなわち生きものなり」が開幕した。妖怪を模した作品や、触角のはえた少女の絵画など、会場は多彩な生きものたちの「表現の生息地」と化している。

本展では二つの新たな試みを展開している。一つは、生きものの表現に出会う機会を増やしたいという思いから、会期を前期と後期に分け、出展者を総入れ替えした。もう一つはNO-MAという会場自体の模様替えだ。書籍の閲覧コーナーと小学生を対象に行うワークショップスペース、オリジナルグッズコーナーを1階に設けたことだ。そして、もともと書籍コーナーであった2階のスペースは逆に展示会場として再活用した。これまで何度かNO-MAに来館された方には、以前とは違うNO-



「これ、すなわち生きものなり」  
 前期：2015年9月12日(土)～10月18日(日)  
 [出展者] 飯塚政暁、木本博俊、古賀翔一、澤田真一、新野洋、谷平博、萩尾俊雄、沼祐一  
 後期：2015年10月22日(木)～11月23日(月・祝)  
 [出展者] 瀧美圭亮、江本創、門山幸順、鮎万里絵、濱脇忍、藤田雄  
 後援：滋賀県、滋賀県教育委員会、近江八幡市、近江八幡市教育委員会

MAの空間を楽しんでいただけたらう。

前期は8名による作品群を紹介した。1階会場に最初に現れるのは、澤田真一の粘土作品と沼祐一の貼り絵。手法も世代も異なる両者だが、細かな行為を繰り返していく制作過程が共通し、「つくる」ということの欲求の源が感じられる。会場奥には、古賀翔一と谷平博の作品。古賀は、日本の架空生物の代表格といえる妖怪を制作している。作品は会場の至るところ(梁や鴨居など)にも展示し、「彼ら」がずっと以前からそこに居続けていたかのような不思議な演出を心掛けた。古賀と同様に、谷平もまた非現実世界の生きものを表現する。

平行線上の世界(パラレルワールド)を設定して、その環境やそこに住

まう生きもの同士の交流を描き、神話的な物語を展開する。また、感では萩尾俊雄による特撮怪人のシリーズを紹介。鋭く尖ったオリジナルの怪人たちから、作品に込められる作者の美的感覚が存分に伝わるような展示となっている。2階では、新野洋による植物の形を使った架空の昆虫シリーズ、浮遊感のある木本博俊の絵画、飯塚政暁のゆらゆら動く蜘蛛のような生きもののインスタレーションを紹介した。1階の薄暗い空間から一転して、自然光が入り、心休まる開放的な空間だ。なお、木本については、作品を基にした映像も展示した。動画から制作プロセスや作者の感覚を感じ取っていただきたい。

NO-MA 1階会場の様子



書籍閲覧コーナー兼ワークショップスペースを1階に設置。奥はグッズコーナー。

も想像しながら。

### ノマ Topic of NO-MA トピ

#### ing... ～障害のある人の進行形～

文片山祥子(本展担当)

今年度、「障害者の芸術活動支援モデル事業(厚生労働省補助事業)」で実施する「滋賀県施設合同企画展」は、滋賀県内の福祉施設や特別支援学校、ボードレス・アートミュージアムNO-MAが実行委員会を組織し、企画・展示を行うものだ。

今年で12回目を迎える本展では、新たな取り組みとして、美術・アートマネジメント分野の専門家をアドバイザーに迎え、毎月行う実行委員会で作品の展示方法や関連イベントの企画について一緒に協議を行っている。また、特別支援学校からの参加も初めてであり、29の福祉施設、2つの特別支援学校から40名の作品が出展される。多くの作品が出展されることは本展の特

徴のひとつであるが、今回は前期と後期に分けて作品の展示替えを行い、ゆったりとした空間で存分に作品の魅力を感じていただくと考えている。会期中には、出展作品の中から音楽や言葉に関する表現を集めた関連イベント「ingスーパーリサیتال!!」を通して、多様な表現を分かち合う場を企画した。

NO-MAが開館した2004年から開催されているing展は、毎年、実行委員会形式で展覧会をつくり上げており、参加する施設職員(実行委員)の作品への解釈は人によってそれぞれである。しかし、解釈はちがっても職員の根本的な思い——作者の創作を大切に発信する気持ち——は変わらず、むしろ回を

重ねるごとに個々の作品がより良く展示される方法について積極的に協議する場へと進化してきている。そのことは関連イベントの性質が、展示のテーマや個々の作品との関連性を意識した内容へと深められていることにも現れてきた。これまで来場者から、障害のある人の独自の世界感に対してたくさんの好評をいただいていたのも、ひとえにこうした継続性と進化(深化)の証と言えるかもしれない。

このように各実行委員が持ち寄った作品の展示方法を、それぞれが丁寧に考えることを積み重ねてつくられた展覧会を通して、障害のある人の“今この瞬間”の表現をじっくりと感じていただきたい。



NO-MAでの展示構成の協議



作品実見をする様子

多彩な関連イベントの開催を予定しています。詳細は、裏面をご覧ください。



### 第12回滋賀県施設合同企画展 ing... ～障害のある人の進行形～

前期：2015年11月28日(土)～2016年1月11日(月・祝)  
 後期：2016年1月15日(金)～2月14日(日)

11:00～17:00月曜休館  
 ※祝祭日の場合は翌日休館  
 ※年末年始は2015年12月28日(月)から2016年1月4日(月)まで休館します。  
 観覧料：一般200円(150円) 高大生150円(100円)

※中学生以下・障害のある方と付添者1名無料  
 ※( )内は20名以上の団体料金  
 主催：第12回滋賀県施設合同企画展実行委員会、ボードレス・アートミュージアムNO-MA(社会福祉法人グロー(GLOW)～生きることが光になる～) / 後援(予定)：滋賀県、滋賀県教育委員会、近江八幡市、近江八幡市教育委員会 / 協力：一般社団法人近江八幡観光物産協会、NPO法人しみんふくし滋賀 / 助成：障害者の芸術活動支援モデル事業(厚生労働省補助事業)



アール・ブリュットを  
「言葉」にすること



KBS京都ラジオ  
「Glow ～生きることが光になる～」  
【ゲスト】野沢和弘(毎日新聞論説委員)  
北岡賢剛(社福)グロー理事長  
【放送日時】  
第100回 2015年8月28日 21:30～21:55  
第101回 2015年9月4日 21:30～21:55  
過去放送はPodcastでお楽しみいただけます。

祝  
ラジオ放送  
100回達成

文：アサダワタル(「Glow」パーソナリティ)

2013年10月に放送を開始した本番組は、今夏8月28日に放送100回目を迎えることができた。これもひとえにリスナーの方々や関係者の支えがあったことだ。紙面を借りて厚く御礼を申し上げます。記念すべき100回目のゲストには、これまで障害福祉や児童の問題に積極的に取り組んでこられた毎日新聞論説委員の野沢和弘氏とグローの理事長の北岡賢剛氏を招き、二人の長きにわたる親交をもとに、アール・ブリュットと日本の未来について語り合った。

二人の出会いは1993年頃。まだ30代半ばだった北岡氏ら4名が、知的障害のある人々が地域生活を送るためのボランティア組織「平成桃太郎の会」を立ち上げた時期だ。自閉症である子を持つ親の立場としても活動してきた野沢氏は、この先駆的な取り組みを通じて北岡氏のことを知った。一方の北岡氏は、福祉に軸足を置きながらも幅広い視野から問題を掘り下げた野沢氏の記事に以前から魅せられていたと語る。

まず、北岡氏の最初の職場である信楽青年寮の二つの特長——障害のある人たちが街中で仕事をすること、実用品に留まらないユニークな造形作品が多数生まれてきたこと——が紹介される。北岡氏はこの活動に触れる中で、制度づくりの必要性とともに「欠損しているからこそ立ち上がる表現に強く共感してきた。北岡氏はこう語る。「彼女たちは、決して福祉サービスを受けるためだけに生まれてきたわけではなく、人々に大いなる感動を与えてくれる存在だと、作品を通じて思っています」。

そして野沢さんは、岩手県のアール・ブリュット作家木伏大助氏の大量の作品群(古い日本映画のポスターを模したユニークな平面作品)に圧倒された体験をもとに、「なぜ北岡さんが、障害の現場でアートの必要性を訴えているのか、徐々にわかってきたんです」と語った。

トークで興味深かったことのひとつに「言葉」にまつわる議論があった。野沢氏は長年記者として「言葉にして伝える」立場から「やればやるほど本当に大切なものから離れていく気がして。もともと何かをどうすれば表現できるのかって思っていたときに、アール・ブリュットと出会って、あっ、そうか! って気付いたんです」。逆に北岡氏からは「僕は彼ら彼女らの作品を言葉にできないで悩んできた。だから野沢さんを始め、

美術の専門家や精神科医など、様々なジャンルの方々が語り出してくれたことが嬉しかった。まだまだこれらの作品は言葉にされることを待っているのではないのでしょうか」と応答があった。

毎年大津で開催される全国規模の福祉の祭典「アムニティフォーラム」での展示会も、作品や作り手の存在が、多数の講師陣や参加者によってまさに「言葉」にされ広がってゆく場だ。また同時開催の「バリアフリー映画祭」では目が見えない人、耳が聞こえない人、その両方の立場の人々と共に映画を鑑賞する実験を通じて、障害のある人に娯楽を提供するのみならず、障害をきっかけにしながら新たな文化を創造する取り組みを行なっているのだ。野沢氏はこう話す。

「障害とは、人々が新たな価値を生み出す触媒なのではないか」と。昨年で開館十周年を迎えたNO-MAでは、欧州のみならずアジア諸国との国際交流や、近江八幡の地域の人々と協働で展示会を行なう取り組みなど、以前にもましてこの「触媒」としてアール・ブリュットという考えを実践している。「これから日本が一層多様な価値観に向かっていくなかで、アール・ブリュットの魅力を掘り下げてゆくことは、人間や社会の本質を知る行為に他ならないのではないのでしょうか」。野沢さんのこの締めくくりを受けて、改めてこの番組のパーソナリティとしての責任の重さも感じつつ、さらなるゲストの「言葉」と創作現場から聞こえる産声を届けていきたいと思っただ次第だ。

◀朝7時45分、集団登校の小学生たちが挨拶して行く様子はさすがしい



車に乗った中学生、ランドセルを揺らしながら歩く小学生の安全を守る重要な役割を担われている。「そらしんどいって思う日もあるけど」と腰をさすりながらも、優しい面持ちの目尻をさらに下げながら「(子どもから)おじちゃん、なんぼもうてんの?と聞かれて、100万円もうてんでって答えたりな。子どもたちの可愛さにこっちも元気をもらえる。それが気概になるわな」と笑みを浮かべ語ってくれた。

昭和18年に東京で生まれた中島さんは、生まれて間もなく祖母と母と姉たちと一緒に近江八幡に疎開してこられた。高校卒業後、大阪の企業に勤めてから約20年ぶりにこの地に戻ってきた日、自警団の訓練中だった幼馴染に「おまえも手伝え」と引越途中に駆り出されたというエピソードを聞き、ずっと変わらないこの町の絆の強さを感じた。結婚をし、2人の娘にも生まれ、今は2人の孫のおじいちゃんだ。NO-MAがこの地に開館して12年が経ち、地域の

方々に大変お世話になる機会が増えてきている。碁盤の目のようなこの町で、NO-MAを探す遠方からのお客様がクリーニングの相互に道をお尋ねになることが多々あり、数年前から店の外壁にNO-MAへの案内看板を掲示して下さっている。「道案内するのがえらい(大変な)だけや」とそっけなく仰るが、そのお申し出に心が温まる。

「今日、中島さんいるかな?」と思いながらその姿を見つけて挨拶をするとき、私たちはすごくホッとする。いつも通り「その時間にその場所にいる」ということは、人と人との繋がりのおかげでとても大きな安心感をもたらしてくれる。そのことにおいても、地域を支える大切な役割を果たされているのだと思う。



去年からはNO-MA主催の展示会でボランティアスタッフとしても活動してくださっている。

地域インタビュー  
ohmi-hachiman local interview

今日も子どもたちの安全を守る  
クリーニング屋さん

—その時間、その場所にいる安心感

クリーニングの相互  
なかじま きよし  
中島 清氏

文：木元聖奈(アイサアドバイザー)



いくつもの商店が並ぶ仲屋町通りをNO-MAに向かって進むと、必ず曲がることになる角がある。そこは小さな通りだが、朝や夕方は目的地へと急ぐ自動車と小中学生の登下校が重なり往來が激しい。その時間帯に通ると、月曜日から金曜日まで、雨の日も雪の日も、必ずそこに立っている男性がいる。それがクリーニングの相互の中島清さんだ。子どもたちの登下校の時間になると、交通安全の帽子とジャンパーを身に纏い、旗を持って表へ出る。自転

◀クリーニングの相互の壁面に設置させてもらった案内看板

あのひとの  
近江八幡  
スタイル





## NO-MAの新メディア

.....&lt;NO-MA新グッズのご案内&gt;.....

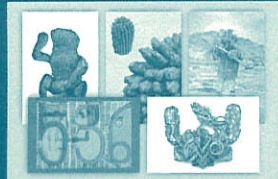


## 新グッズ

ポストカード、トートバッグ、  
クリアファイル、一筆箋

新しいグッズの販売がスタートしました。企画展出品作品のポストカードや、アール・ブリュットの作品図版を用いた一筆箋など、NO-MAの店頭やホームページからお買い求めいただけます。

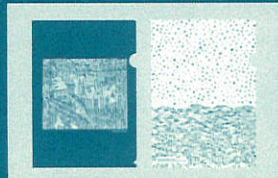
ポストカード 150円



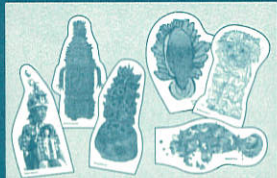
トートバッグ 1,000円



クリアファイル 380円



一筆箋 380円



.....&lt;ラジオ番組のご案内&gt;.....

アール・ブリュットをきっかけに  
人の営みを考えるトークラジオ。

Glow ~生きることが光になる~

放送日時:毎週金曜日 21:30-21:55

周波数:1143-1485kHz AM, KBS京都 Radio

2014年4月から、アール・ブリュットをきっかけに人の営みを考えるラジオ番組が始まりました。パーソナリティーは文筆家・音楽家のアサダワタルさん。そしてアール・ブリュットにまつわる現地からのレポートを社会福祉法人グローの田端一恵が担当します。放送エリア外にお住まいの方もぜひPodcastからお聴きください。

(音声は放送後の翌月曜日、祝日の場合は火曜日に更新します)

はたよし  
ボーダレス・アートミュージアムNO-MA アートディレクター

【編集長はつばやく】

人の造形感覚は「見る」ことからの認識に留まらない。造形作家の光島貴之さんは、全盲である。彼は次のように述べている。「障害は、障害ではなく文化だと僕は考えている。見る文化があるなら、見えない文化もある。例えば音、手触りの世界。聴覚や触覚は視覚の代用ではない。」

彼のこうした提言や表現は、目で見ることだけで世界を把握していると思ひ込んでいく多くの人々にとって、何かを感じることの「面白さの領域」をマジックのように変えてくれる。それは見えないことの障害がもたらすものに限らない。

たとえば、知的障害がある木村茜さんの表現は、形の創出と腕の動き、音とリズムが、全て一体となって「絵を描く」という彼女独自の法則を作っている。単純だが、そういう感覚解放の仕方は、私たちに多くの示唆を与えてくれる。

それは、造形作家である西村陽平さんが、視覚障害のある子どもたちに対して、身体感覚や触角などそれら全体を通して掘り起こした、驚くべき造形感覚とも通底している。

人の表現は、このように多様で自由に溢れているのだ。それは、すべての人々にとっても「幸福な発見」だと思う。

第12回滋賀県施設合同企画展  
ing... ~障害のある人の進行形~  
関連イベント

展覧会情報(概要)は中面をご覧ください。

## オープニングイベント

【Part.1】

2015年11月28日(土) 13:30~14:30

【Part.2】

2016年1月16日(土) 14:30~15:30

◎ボーダレス・アートミュージアムNO-MA

定員:20名 (¥ 観覧料のみ(要予約))

## 作品鑑賞プログラム

「作品の魅力を発見するさまざまな視点」

講師:細馬宏通(人間行動学者・滋賀県立大学教授)

2015年12月19日(土) 13:30~14:30

◎ボーダレス・アートミュージアムNO-MA

定員:20名 (¥ 観覧料のみ(要予約))

## 講演

「障害者の作品の魅力と可能性について」

講師:

今井祝雄(美術家・成安造形大学名誉教授)

中野裕介(美術家・パラモデル)

2016年1月16日(土)

【講演】

13:30~14:15

◎奥村邸(近江八幡市永原町上8)

【ギャラリートーク】

14:30~15:30

◎ボーダレス・アートミュージアムNO-MA

定員:30名 (¥ 観覧料のみ(要予約))

## 「ingスーパーリサイクル!!」

~僕らの終わらないステージ。  
でも(内容は)気分によって変わります~

2016年2月13日(土)

13:30~15:00(アフタートークあり)

◎酒遊館(近江八幡市仲屋町6)

定員:50名 (¥ 無料(要予約))

## 常設ワークショップ

① 会期中の閉館時間

◎ボーダレス・アートミュージアムNO-MA

② 観覧料のみ(予約不要)

## アール・ブリュット魅力発信事業

## アール・ブリュット国際フォーラム2016

アール・ブリュットの研究者など国内外の有識者による講演及びシンポジウムを開催し、国際的な見地から「日本のアール・ブリュット」の魅力を考察します。

2016年2月6日(土) 予定

◎大津プリンスホテル

コンベンションホール淡海

詳細はNO-MAのウェブサイト(no-ma.jp)で公開します。

## アール・ブリュット展

## inアール・ブリュット国際フォーラム2016

2016年2月5日(金)~7日(日)

13:00~21:00(7日は14:00まで)

◎大津プリンスホテル

コンベンションホール淡海

¥ 500円

小学生以下・障害のある方と付添者1名無料

主催:アール・ブリュット魅力発信事業実行委員会  
[構成団体]

ボーダレス・アートミュージアムNO-MA

((社福)グロー[GLOW])、滋賀県(総合政策部

文化振興課/健康医療福祉部障害福祉課)、

近江八幡市、滋賀県立近代美術館、

(一社)近江八幡観光物産協会、(社福)愛成会、

(特非)はれたりくもったり、滋賀県施設

合同企画展実行委員会

助成:平成27年度文化庁 地域の核と

なる美術館・歴史博物館支援事業

## アール・ブリュット☆アート☆日本3

ボーダレス・アートミュージアムNO-MAを拠点に、近江八幡市の情緒あふれる複数の会場で、アール・ブリュットの展覧会を開催します。

2016年2月20日(土)~3月21日(月・祝)

10:00~17:00

◎ボーダレス・アートミュージアムNO-MA

+近郊3会場

¥ [全会場共通パスポート]前売り700円/

当日1,000円[単館パスポート]当日300円

主催:社会福祉法人グロー(GLOW)

~生きることが光になる~

助成:独立行政法人福祉医療機構 社会福祉  
振興助成事業詳細はNO-MAのウェブサイト(no-ma.jp)  
でお知らせします。

これまでボーダレス・アートミュージアムNO-MAを運営してきた「社会福祉法人滋賀県社会福祉事業団」は、2014年4月「社会福祉法人オープンスペースレガート」とひとつになり、「社会福祉法人グロー」となりました。



ボーダレス・アートミュージアム NO-MA



滋賀県近江八幡市永原町上16

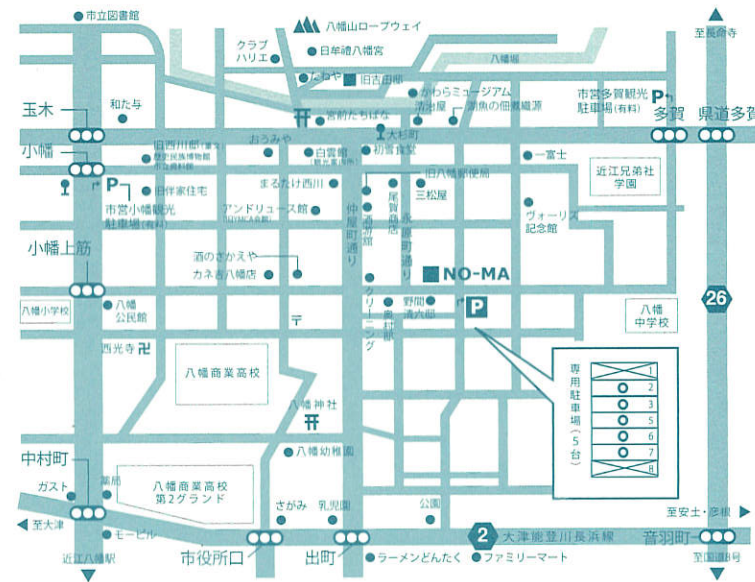
TEL/FAX 0748-36-5018

休館日:月曜日

(月曜日が祝祭日の場合は翌日休館)

E-mail no-ma@lake.ocn.ne.jp

http://www.no-ma.jp



バス JR近江八幡駅から近江鉄道バス(長命寺行き)大杉町バス停下車 徒歩10分

車 名神高速道路・竜王ICより「近江八幡・国道8号」方面へ。国道8号「西横関」右折、「東川口」左折。国道2号「小船木町」右折、「出町」左折。(計30分)



「NO・MAニューズレター野間の間 VOL.19」正誤表

内容に誤りがありましたので謹んで訂正いたします。

頁	位置	誤	正
3	アール・ブリュットを巡る コラム VOL.9 2段 11行目	岩手	宮城
4	「ing スーパーリサイタル!!」 3行目	酒遊館	酒游館
4	【編集長はつぶやく】 4、15行目	触角	触覚

(2015年11月)